

ポジティブインパクトファイナンス評価書

～ 株式会社ジャパン・パッケージ ～



2023 年 6 月 23 日
株式会社名古屋銀行
法人営業部 法人コンサルティンググループ

はじめに

株式会社名古屋銀行は、株式会社ジャパン・パッケージに対し、めいぎんポジティブインパクトファイナンス（以下、めいぎんPIF）を実行した。

本件取組にあたって、株式会社名古屋銀行は国連環境計画金融イニシアティブ（以下、UNEP FI という。）が策定した「ポジティブインパクト金融原則」及び、環境省が策定した「インパクトファイナンスの基本的考え方」に則り、株式会社ジャパン・パッケージの企業活動における包括的なインパクトを分析し、充実したサステナビリティ経営に向けた KPI を設定した。

借入人概要

借入企業	株式会社ジャパン・パッケージ
所在地	愛知県あま市下萱津五反田 25 番地
従業員	31 名 ※2023 年 5 月末時点
事業内容	・ 充填、包装、ラベラー機の設計、製造、販売 ・ ラベル、フィルム、袋など包装資材の製造・販売 ・ 充填、包装、物流ラインエンジニアリング ・ 充填ライン、包装ラインの移設工事

融資条件概要

融資形態	証書貸付
融資金額	100,000,000 円
資金使途	運転資金
融資・モニタリング期間	3 年

目次

1. 企業情報	3
①会社概要	
②沿革	
③組織図	
④経営理念	
2. 事業内容	6
①概要	
②主な取扱商品	
③コスメ事業部	
3. その他の活動	10
①開発から製造までの一貫体制	
②ダイバーシティの実現（女性・シニア活躍）	
③グランパス後援会	
4. インパクトの特定	12
①インパクトマッピングによるインパクト分布	
②インパクト分布図	
③国内のインパクトニーズ	
5. 測定する KPI	18
・ポジティブインパクトの拡大	
・ネガティブインパクトの縮小	
6. インパクト管理体制	19
7. モニタリング方法	19
8. 総括	19

1. 企業情報



① 会社概要

会社名	株式会社ジャパン・パッケージ
設立年月日	2007 年 11 月 26 日
代表取締役	安田 和郎
本店所在地	愛知県あま市下萱津五反田 25 番地
従業員数	31 名 ※2023 年 5 月末時点
決算日	10 月 31 日
資本金	10 百万円
直近売上高	671 百万円 (2022 年 10 月期)



② 沿革

●2007年

名古屋市中村区八社において株式会社ジャパン・パッケージ 設立

●2011年

マグネットクラッチの輸入に伴いデスクトップシリーズ デスクトップキャッパを開発

●2012年

CHIE MEI ENTERPRISE から包装機輸入開始
国内の販売・メンテナンス・国内仕様への改造を行う

●2013年

コスメ事業所 開設
化粧品製造許可取得

●2014年

デスクトップシリーズ『円周貼ラベラー』製造販売開始
デスクトップシリーズ『卓上ラベラー平貼機』開発製造販売開始

●2015年

機械器具設置業許可の取得
建設業 機械器具設置工事業 愛知県知事許可(般-27)第107739

●2017年

海外展示会初出展 インターパック(ドイツ・デュッセルドルフ)
業務拡張に伴い新社屋に移転(愛知県あま市) 営業開始
テクニカルセンター開設

●2020

パウチ用ラベラー開発・販売

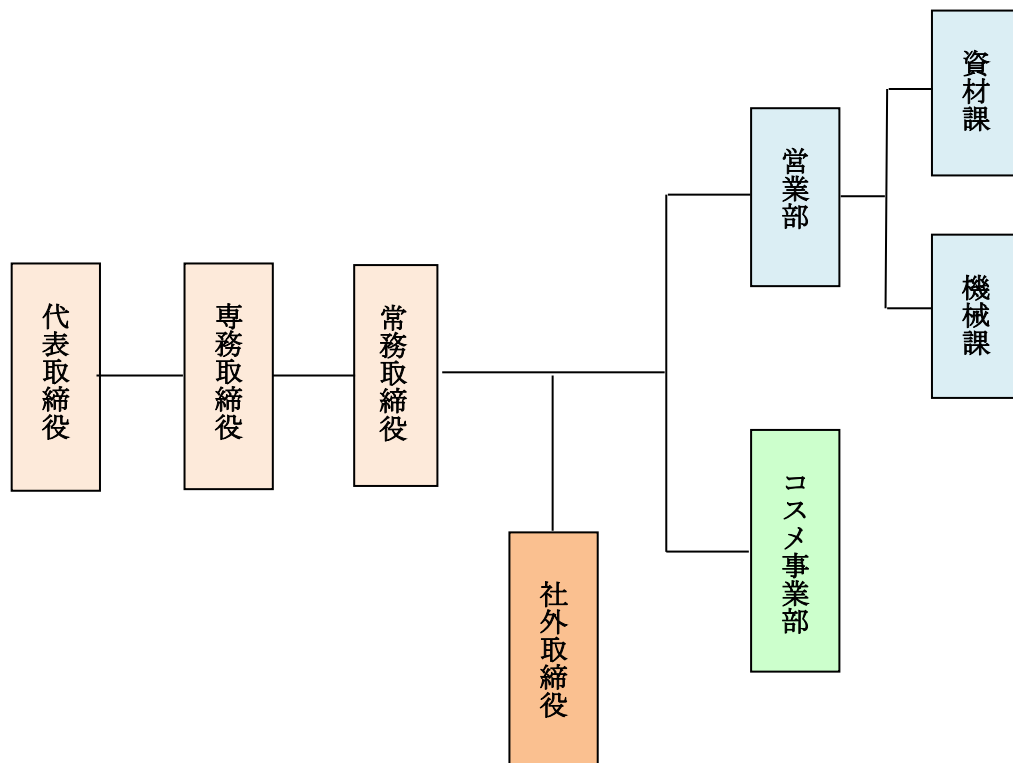
●2022

医薬部外品製造許可取得

●2023

半自動カートナー開発・販売

③ 組織図



④ 経営理念

経営理念

アイデアと誠実さをもって人の役に立てる仕事をする
会社にかかわる全ての人が笑顔になれるよう
人に優しく、自分に厳しく、プライドを持って仕事を行う

我々を取り巻く環境は止まることなく変化し続けており、従来の商品・従来の考え方・従来のサービスでは要望に応じていく事は出来ないと当社は考えている。そのような変化していくニーズに素早く対応することを常に考える企業を目指し、必要であれば機械や資材、サービスを新たに作り出す・作らせる・国外から持ってくる等、社内設計製造・委託製造・輸入とあらゆる方面で対応することで、経営理念を実現し続けていく。

2. 事業内容

① 概要



当社は、充填・包装に関連する機械や資材で商品を生産する会社であり、主にラベラー機、自動包装機器、充填機器などの設計や製造、卸売を行っている。顧客は製薬会社、化粧品メーカー、食品メーカー等多岐にわたり、充填・包装機器とともに資材販売の設計・製造も可能である。

無い機械は作り、有る機械はそれを使い充填ライン・包装ラインを構築するスタイルは、顧客のニーズに素早く応え、そしてリーズナブルなパッケージマシンの提供に繋がるとともに、機械だけでなく包装資材の設計・製造も行えることで、機械や商品に合わせた包装材料も併せたトータルコーディネートが行える。

様々な面で応用がきく当社の開発・企画力は、大手企業、中小企業問わず、各業界で多くの引き合いを受けている。

②主な取扱商品

(1) 卓上型円周貼ラベラー



円型のボトルなどにラベルを自動で貼り付ける機械。

卓上型で 100V コンセントがあればどこにでも設置でき、タッチパネルによる簡単操作が可能。多角形ボトル・テーパーストロール（オプション）にも貼り付けでき、デフォルトで容器自動排出装置付き。

オプションでサーマルプリンターが搭載でき、ロットナンバーや賞味期限の印字をしながら貼付けもできる。

【用途】 クリーム容器、丸ボトル、多角形ボトル、ビン、テーパーストロール、チューブ容器

(2) パウチ用ラベラー



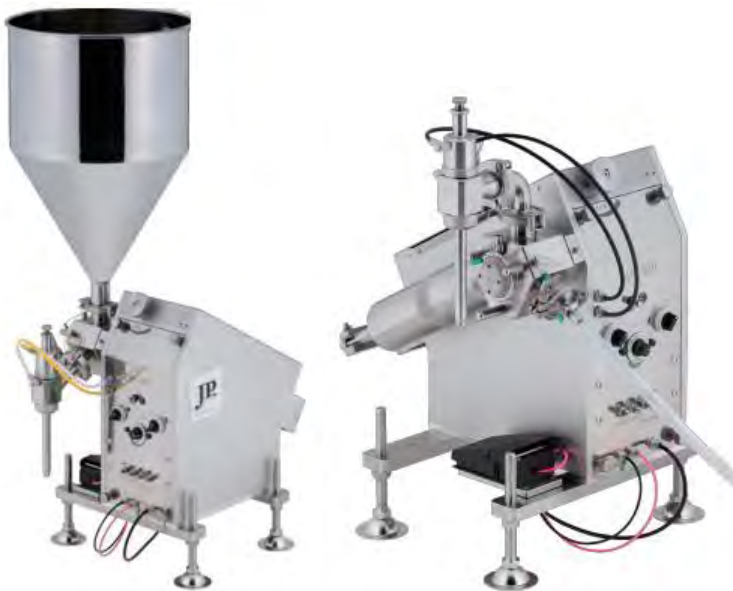
スパウト付きパウチ、平袋、スタンド袋、ガゼット袋に自動でラベルを貼る機械。

安定したラベルの繰り出し及び貼付を正確に行い、パウチや袋は圧着ローラーを通過する仕様であるためエア噛みも発生しない。

大型のタッチパネルでの操作は感覚的に行うことができ、必要であればオプションで直線供給コンベアを付けることができる。

シンプルながらも生産効率の向上に大きく寄与するマシンである。

(3) 斜めピストン充填機



ピストンを用いて、シリンダー内の充填物を吸引しとどめた後、弁を開け容器（ペットボトル、瓶など）に充填を行う機械。

斜めにすることで、エアー溜りがなく、高い充填精度と歩留まりの低減、製品生産数比率の向上を実現している。

化粧品、薬品、化学薬品、食品など液体から粘体まで、幅広い用途で 사용할 ことができ、省スペースでの充てん作業に向いている。

(4) インラインキャッパー



キャップに傷をつけることなく確実に締込みを行う機械。

コンベアに直接設置可能なインライン型で、多品種・新製品にも柔軟に対応可能な設計となっており、型替部品も不要な点が好評を得ている。

サーボモニターによるトルク値判定を行っており、指定トルク（タッチパネルにより数値をテンキーで入力）に達するまで締付けを行うため、クラッチ式のように空回りによる締付不良が発生せず、スムーズな量産品製造を実現する。

【用途】 ノーマルスクリューキャップ、ディスペンサーキャップ、ポンプキャップ、トリガーキャップ、ヒンジキャップ等様々なキャップタイプの締め込みに対応

(5) オーバーラッピングマシン



キャラメル包装、タバコ包装、上包み等いろいろな呼び方をされるこのフィルム包装を簡単に行うことができる機械。

低いフィルムコストで、改ざん防止、商品価値の向上（商品を汚れや傷から守る、見映えが良くなる）を実現しながら、開封のしやすさを保つことができる。

【用途】 化粧品・薬品・香水・健康食品・ティッシュ・CD/DVD・消しゴム・食品・雑貨等、箱物のオーバーラッピング、2ヶ3ヶパック等の集積包装

③ コスメ事業部（化粧品受託製造）



当社は化粧品・医薬部外品の充填、包装仕上げ作業に必要となる化粧品製造業許可（一般）、医薬部外品製造業許可（一般）を取得している。一般区分の許可を受けているため、品質基準の厳しい化粧品、医薬部外品の充填、包装、梱包作業が可能である。

当社が、本来得意としている充填機器・包装機器の設計、製造、販売及び包装資材の製造・販売の豊富な経験を活かし、顧客に信用されるビジネスパートナーとして常に技術力の向上に努め、化粧品・医薬部外品の取扱いに特化した環境・設備により、万全の品質管理を行うことで、顧客の要望に応える高品質なOEM製品を提供している。

3. その他の活動

① 開発から製造までの一貫体制



顧客に対して、常に革新的で価値の高い提案・製品を提供するため、当社は営業から設計、製造が一体となってモノづくりに取り組んでおり、スピード感のあるプロジェクト進行を実現している。加えて、メーカーが取り扱っていないものの取り扱いが可能かつ、修理・メンテナンスも請け負える当社は、企画、設計、製造さらには保守までを一気通貫で行うことができる。

これにより、顧客ごとの柔軟なオーダーメイド対応が可能でありながら、短納期化も実現させることができ、業界内での地位を確立している。

また、一貫受注体制により培われた知識・経験・ノウハウを活用して、充填ライン・包装ライン・パッケージの改善コンサルティングにも従事しており、異物混入・製造日・改ざん等様々な問題のある製造現場に対して、内部からでは分からないことを外部の目で見たとうえで、最適なアドバイスと機械の提案を行っている。

② ダイバーシティの実現（女性・シニア活躍）



当社では多様な人材を活かし、その能力が最大限発揮できる機会を提供することで、イノベーションを生み出し、価値創造につなげるための経営を行うダイバーシティの取組を進めている。年齢・性別を問わない公正公平な雇用・人材配置をはじめ、子どもや介護の都合による柔軟な勤務体系を認め、従業員同士でサポートし合うような企業文化の醸成や、65歳以上でも働く意欲を持った人材の再雇用制度の導入など、能力を持った人材が長く働けるような施策を実施し、企業の成長に繋げている。

③ グランパス後援会



当社は、地元中部地区の自治体・企業を中心に名古屋グランパスを通じて社会に貢献する活動を幅広く支援する組織である「名古屋グランパス後援会」に所属している。

当組織はスポーツを通じて次世代を担う若者、子どもたちに夢を与えることを目的とし、地元の子どもたちとの交流イベントの実施やサッカー教室の開催、名古屋市子ども青少年局子育て支援部への観戦チケット贈呈などの地域貢献活動を行っており、当社も組織活動の積極的支援を行っている。

4. インパクトの特定

①インパクトマッピングによるインパクト分布

名古屋銀行は事業性評価におけるビジネスモデル（非開示）により株式会社ジャパン・パッケージの主要、関連業種を特定し、UNEP FI が推奨するインパクトマッピングからポジティブインパクト及びネガティブインパクトの分布を調査した。株式会社ジャパン・パッケージの業種カテゴリは多岐に渡る為、分布図は主要業種の掲載に限定する。

分布図中の「★★」は重要な影響があるカテゴリ、「★」は影響があるカテゴリを示す。株式会社ジャパン・パッケージの事業活動については「★★」「★」の影響をすべて検討する。川上・川下の事業活動については株式会社ジャパン・パッケージが直接関与できないため次の事項を検討する。

ポジティブ面では川上・川下の事業でポジティブな影響の促進やネガティブな影響の緩和に株式会社ジャパン・パッケージの事業が貢献できることがないか検討する。

ネガティブ面では川上・川下の事業において重要な影響があるか影響が及ぶ地域での対応のニーズが強いカテゴリについて、取引関係の管理などを通じて緩和に貢献できるか検討する。

分析の対象となる事業活動がインパクトマッピングの業種分類に含まれる特定の事業の場合、当該事業とは無関係なインパクトカテゴリについては検討しない。

②インパクト分布図

●川上事業

インパクトカテゴリ	川上の事業											
	【 1702 】		【 1811 】		【 2220 】		【 小分類251 】		【 4652 】		【 4659 】	
	段ボール及び板紙並びに紙製・板紙製容器製造業		印刷業		プラスチック製品製造業		構造用金属製品、タンク、貯槽及び蒸気発生装置製造業		電子・電気通信機器及び部品卸売業		その他機械器具卸売業	
	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative
	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ
水（入手）												
食料												
住居												
健康・衛生			★			★						
教育			★									
雇用	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★
エネルギー												
移動手段												
情報									★			
文化・伝統			★									
人格と人の安全保障												
正義												
強固な制度・平和・安定												
水（質）		★★		★		★★		★		★		★
大気		★		★		★		★		★		★
土壌						★★						
生物多様性と生態系サービス										★		★
資源効率・安全性		★		★		★		★				
気候		★		★		★		★		★		★
廃棄物		★★		★		★★		★		★		★
包摂的で健全な経済	★		★		★		★				★	
経済収束												

川上の事業としては、取扱機械を製造するために必要となる部品等の製造業者・卸売業者や、資材販売分野の製品製造業者・卸売業者、さらに当社が企画・設計した機械を製造する外注業者が該当し、ポジティブインパクトとしては『雇用』『包摂的で健全な経済』の分野で確認された。

（分布図上で他表出している『健康・衛生』『教育』『情報』『文化・伝統』は、同社事業との関連はないものと見なし分析対象外とした）

一方で、ネガティブインパクトとしては『健康・衛生』『雇用』『水（質）』『大気』『土壌』『資源効率・安全性』『気候』『廃棄物』について確認された。

上記の各インパクトについては、当社による直接的な関与が難しく影響力としても軽微なものに留まってしまうのが現状である。

●同社事業

インパクトカテゴリ	同社事業													
	【 2023 】		【 2220 】		【 2819 】		【 2829 】		【 3320 】		【 4659 】		【 8292 】	
	石けん、洗剤、クリーニング・つや出し剤、香水及び化粧品類製造業		プラスチック製品製造業		その他の一般機械製造業		その他の特殊産業用機械製造業		産業用機械器具設置業		その他機械器具卸売業		包装業	
	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative
	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ
水（入手）									★					
食料														
住居														
健康・衛生	★			★										
教育														
雇用	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★
エネルギー														
移動手段														
情報														
文化・伝統														
人格と人の安全保障														
正義														
強固な制度・平和・安定														
水（質）		★		★★		★		★	★			★		
大気		★		★		★		★	★			★		
土壌				★★		★		★	★					
生物多様性と生態系サービス									★			★		
資源効率・安全性		★		★		★		★						★
気候		★		★		★		★	★			★		
廃棄物		★		★★		★		★		★		★		★
包摂的で健全な経済	★		★		★		★		★		★		★	
経済収束														

主に食料品、化粧品、医薬品分野における産業用機械及び関連資材の製造・販売と卸売、また化粧品・医薬部外品のOEM製造に従事する当社は、『水（入手）』『健康・衛生』『雇用』『水（質）』『大気』『土壌』『生物多様性と生態系サービス』『気候』『包摂的で健全な経済』が確認された。

化粧品、医薬部外品といった人間が清潔感を保ち、衛生的に良好な環境の維持に不可欠な製品の製造・資材卸売分野において『健康・衛生』のP Iが確認されるとともに、生産効率を向上させるコンサルティング・エンジニアリングも兼ねた機械の製造・設置業務は、内製化促進による輸送頻度の低減に繋がり『大気』『気候』におけるP I拡大への貢献も認められる。（分布図に表出している『水（入手）』『水（質）』『土壌』『生物多様性と生態系サービス』のP Iについては、当社事業による直接的影響は軽微であるため分析対象外とした）

食料品、化粧品、医薬部外品、医薬品を中心とした生活必需品の製造業の生産性向上に貢献し、当社が持つ技術・ノウハウを活かすことができれば、柔軟に先方需要に対応する姿勢は『包摂的で健全な経済』に寄与していると考えられる。

一方で、ネガティブインパクトとしては『雇用』『水（質）』『大気』『土壌』『生物多様性と生態系サービス』『資源効率・安全性』『気候』『廃棄物』について確認された。

主な原因としては製品の製造・加工・配送を行う過程で発生する温室効果ガスを含む有害物質や廃棄物によるものと考えられるが、当社として、まずは使用電力について太陽光発電を設置し、クリー

ンエネルギーへの切替を進めることで、ネガティブインパクトの縮小させることを考えている。

また、当社が取組んでいる原材料のロス削減と在庫回転率を意識した厳格な管理体制は、業界内でも高い水準を維持しており、引き続き生産効率向上による施策の展開およびコンサルティング業務による取引先へのノウハウの共有を通し、広い範囲でN I 縮小に貢献していく。

人材分野については、今後ともダイバーシティ経営に則った雇用の創出と、技術・知識の承継を中心とした人材育成により『雇用』に対するP I 拡大、N I 縮小を図っていく。

●川下事業

インパクトカテゴリ	川下の事業					
	【 中分類10 】		【 中分類20 】		【 2100 】	
	食料品製造業		化学品及び化学製品製造業		医薬品、薬用化学品及び植物性薬品製造業	
	Positive ポジティブ	Negative ネガティブ	Positive ポジティブ	Negative ネガティブ	Positive ポジティブ	Negative ネガティブ
水（入手）						
食料	★★		★			
住居			★			
健康・衛生	★	★★	★	★★	★★	
教育						
雇用	★	★	★	★	★	★
エネルギー						
移動手段						
情報						
文化・伝統	★					
人格と人の安全保障						
正義						
強固な制度・平和・安定						
水（質）		★		★★		★
大気				★		★
土壌				★★		
生物多様性と生態系サービス						
資源効率・安全性		★		★		★
気候		★		★		★
廃棄物		★★		★★		★
包摂的で健全な経済	★		★		★	
経済収束						

川下の事業としては、食料品、化学製品、医薬品のメーカー全般が該当し、ポジティブインパクトとしては『食料』『住居』『健康・衛生』『雇用』『文化・伝統』『包摂的で健全な経済』が確認され、各分野において根本的な性質上で認められるカテゴリと考えられる。

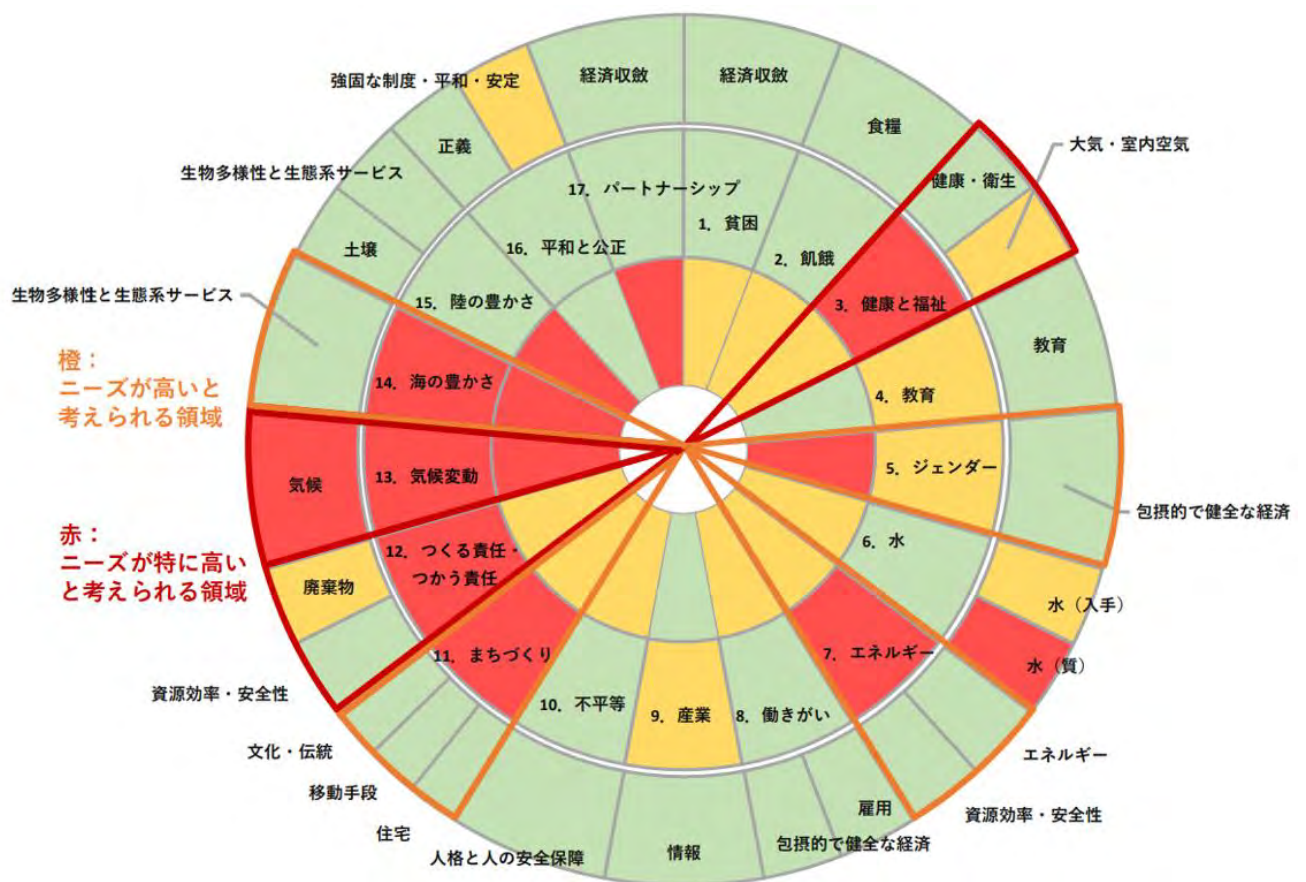
また、ネガティブインパクトとしては『健康・衛生』『雇用』『水（質）』『大気』『土壌』『資源効率・安全性』『気候』『廃棄物』が該当しており、製品の製造・加工・配送を行う過程で発生する有害物質・廃棄物が要因と考えられる。

当社としては特に、『資源効率・安全性』『廃棄物』のN Iに対し、生産性向上・原材料のロス削減に資する機械・コンサルティングサービスを提供することで縮小を図っていく。

③ 国内のインパクトニーズ

環境省が策定した「インパクトファイナンスの基本的考え方」における国内のインパクトニーズは下記の図によって表される。特に取り組むべき SDGs を赤色、取り組むべきであるが不十分な SDGs を黄色、その他を緑色としているものである。

次ページの「5. 測定する KPI」において名古屋銀行が特定した株式会社ジャパン・パッケージのインパクトと対応する SDGs のゴール「7, 9, 13」について、赤色もしくは黄色のゴールに該当するものとなっており、国内のインパクトニーズとの整合的である。



5. 測定するKPI

① 取引先の生産効率向上への貢献

項目	内容
インパクトの種類	経済面でポジティブインパクトを拡大、環境面でポジティブインパクトを拡大
インパクトカテゴリ	「大気」「資源効率・安全性」「気候」「廃棄物」「包摂的で健全な経済」
関連するSDGs	  
対応方針	大企業・中小企業問わず、当社の高品質な製品・サービスや情報の提供に努め、事業拡大を図るとともに取引先の生産効率向上に貢献する
KPI	・2026年度までに年商12億円を達成する（実績報告）

② 人材雇用・育成を通じたサービス品質の向上

項目	内容
インパクトの種類	社会面でポジティブインパクトを拡大
インパクトカテゴリ	「雇用」
関連するSDGs	
対応方針	誰もが働きやすい職場環境の構築し、雇用促進も行う
KPI	・人材の雇用・育成および製品・サービス品質向上を図るため、2026年度までに下記取組を実施する ①従業員の資格取得支援を行い、電気工事士の資格所有者数を3名にまで増員させる（実績報告） ②設計者・開発者を雇用または育成により、2名まで増員させる（実績報告） ・新卒・中途・性別・能力問わず、毎年1名以上の採用を行う（実績報告）

③ 環境への取組み

項目	内容
インパクトの種類	環境面でのネガティブインパクトを縮小
インパクトカテゴリ	「エネルギー」「気候」
関連するSDGs	 
対応方針	クリーンエネルギーへの切替
KPI	2026年度までに本社に太陽光発電設備を設置し、使用電力の再生可能エネルギー化を進める（実績報告）

6. インパクトの管理体制

株式会社ジャパン・パッケージは代表者を中心としてサステナビリティ経営充実の為の施策を各事業部及び法人本部が連携してSDGsの施策を検討・実施・検証する体制が整っている。

めいぎん PIF におけるインパクトについては、代表者が中心となり、管理・達成へ向けた施策を実施する。

インパクト管理者

最高責任者	代表取締役 安田 和郎
-------	-------------

7. モニタリング方法

株式会社ジャパン・パッケージに対するめいぎん PIF のモニタリングは、インパクト管理者と名古屋銀行の担当者（法人営業部サステナビリティ推進担当及び営業店担当者）により年 1 回以上の協議を通して実施する。年 1 回以上の協議は、下記のプロセスで行われる。

項目	内容
1. 内容報告・実績開示	設定した KPI の達成度を確認する。
2. 検証・精査	達成度について開示された情報を名古屋銀行が確認する。
3. 修正の検討	達成度・進捗度を検証し KPI の修正を検討する。
4. 追加の検討	形骸化を防ぐ為、KPI の追加や削除を検討する。

名古屋銀行は上記のプロセスにおいて、自行のサポート及びアドバイスを実施する。また、モニタリング実施状況については、株式会社格付投資情報センターに対し、包括的な年次レビューを受ける。

8. 総括

株式会社ジャパン・パッケージの事業内容及びインパクト調査の結果、手がける事業それぞれにポジティブ及びネガティブな影響を確認した。株式会社ジャパン・パッケージが KPI 達成を目指すことで社内、地域社会への大きな貢献が想定され、UNEP FI の「ポジティブインパクト金融原則」、ESG及びSDGsの観点からも十分な適合性を確認した。